

紫

笥



No. 15

## のちの思ひに

夢はいつもかへって行った

山の麓の淋しい村に

水引き草に風が立ち

草ひばりの歌ひやまない

静まり返った午下りの林道を

うららかに青い空には陽が照り

火山は寝っていた

……そして私は

見て来たものを鳥々を波を岬を

日光 月光を

誰も聞いていないと知りながら

語り続けた……

夢はその先にはもうゆかない

なにもかも忘れ果てようと思ひ

忘れつくしたことさへ忘れてしまった時には

夢は真冬の追憶のうちに凍るであらう

そしてそれは戸を開けて寂寥の中に

星くづに照らされた道を過ぎ去るであらう

— 立原道造 —

## 目次

- 同窓会館設立について  
ダンスへのお誘い
- ニュース  
黒岩先生の御逝去に思う  
昭和44年度会計報告  
紛争について
- 44年度同窓会館建設資金
- 十字路  
大学は教えなくていい  
クラブ活動について  
今年卒業して  
新入生の声
- 大地
- 紫筍編集終って
- 退職、新任の先生方
- 45年度進学・就職状況
- 表紙のことば
- 役員名簿
- 編集後記

# 同窓会館設立

について

## 同窓会館設立委員会

「都立文京高等学校」。卒業生にとって、この言葉はいったいどんな響きを持っているのでしょうか。様々な思い出が甦り、交又し、ふと、友だちや先生や学校の消息が気にかかる、自己確立への過渡期としてそれがどういう形であつたにしろ「青春」というものに体ごとぶつかつていった貴重な三年間だったのではないのでしょうか。

文京に同窓会館をノの声がたち始めたのは今から十年前頃です。新校舎の出来たときに同窓会室の設置を学校側に要望しましたが、実現されず今日に至っています。会館の持つ意義は、非常に大きなものであり、今後の同窓会自体の運営にも関わってくる問題だと思えます。

一、同窓会の事務処理の場

一、同窓会の運営及び活動の場

一、同窓会会員の気軽に立ち寄れる場

一、クラス会、同期会、OB会が開ける場  
等々いろいろありますが、又、同窓生の消息

を正確に把握することによって、会員相互間の利益を計れると思えます。

さて、具体的に、何処にどの位のものを建てるかとなると、やはり、資金の調達が一番の問題となつてきます。学校の敷地内に建てるか、外に建てるかによつてもだいぶ違つて来ますし、会館の規模によつても違つて来ます。が、今日の土地高騰の折、学校の敷地外その付近に会館を建設することは非常に困難です。土地代から言つても、又、その性質上学校と隣接している方が望ましく、敷地内に建てた方がよいと思えます。しかし、ここで所有権と管理の問題が出てきます。土地は都管理の下に運営する形となります。学校の管理下の運営になりますと、昼は在校生が使用し、夜は卒業生が使えるような、生徒会館と共有にし、ふるに活用出来るものとした方がよいのではないのでしょうか。(生徒会館の必要性とその意義を在校生に働きかけねばなりません。)

紫竹10号、13号で説明されているように、

費用をかければかけるほど会館は立派なものとなりますが、一千万円の資金集めはたいへんなものであり、多くの会員皆さまの協力無くしては実現不可能となつてしまいます。資金調達の一環として、バザーや、銀行からの

借り入れ等が考えられますが、その負うところの大半はやはり、卒業生、同窓会会員の寄付による協力となります。現在、第一段階として、二百万円を目標とする運動を始めました。漠然と働きかけるよりは、各期、各クラスを基盤として推し進めていった方が効果的であり、活動しやすいので、各クラスに一人同窓会館建設に向けての発起人をお願いし、資金集めの協力をしていただくことに致しました。私達の力で一日も早く、同窓会館の設立が出来るように、より多くの会員の方々の協力と支援をお願い致します。



# ダンスへの誘い

—ダンス部からのお知らせ—

十九期 風見順子

こんにちは！皆さん

街行く人々の顔にも、木の葉のそよぎにもそこはかとなく秋の気配が感じられる、今日この頃ですが、いかがお過ごしですか。

ところで、人は何か考えたことを、感じたことを絵画で表現する人もいれば、音楽で表現する人もいます。皆さんは、この中どのつれですか？

さて、これからは、音楽に合わせて踊る、



①中屋先生のデモンストレーション

ダンスも加えられてはいかがでしょうか。

勿論、初めから自分の意志を完全に表現できるような、卓越された美しいポーズで踊ることはできないかもしれませんが、年令に差別なく、健康維持に又、スタイル作りに、誰にでも、あなたにも楽しみながら気軽に踊る事ができます。

私達、幹事一同は、万博のテーマにもありますように「調和」という事を主にダンス部を開催してまいりました。何といっても、このダンスというものは、世界中どこの国の人も、楽しく踊ることができる、万国共通のものであります。

さて、あなたも今秋の講習会にいらっしてみてはいかがですか？

## 今秋のダンス講習会

日時 十月四日・十一日・十八日・二十五日の毎日曜日四回。  
午後一時より三時まで。

会場 文京印刷会館(都電大塚三丁目下車徒歩一分)地下鉄茗荷谷駅下車五分

会費 一〇〇円

講師 星野先生ほか。

内容 ◎A組(初級・初めての方)

(1)ルンバ・マンボ(2)ブルース

(3)ワルツ (4)ジルバ

◎B組(中級・少し踊れる方)

(1)キューバルンバ・チャチャチャ  
(2)タンゴ (3)ワルツ (4)ジャイブ

申込先 同窓会ダンス部宛に、A組・B組の区別、卒業年組、住所、氏名を明記の上、ハガキで、なるべく、十月一日(木)までにお申し込み下さい。

参加資格 同窓会会員および会員の知人。

(同窓会の会員でない方は紹介者を明記して下さい)



②校友のデモンストレーション

このダンス講習会は初めての方、および少し踊れる方を中心として年二回行っており、ますます、さらに技術の向上を願う人の為に、毎月一回ダンス研究会を開いております。

なおくわしくお問い合せをなさりたい方は  
東京都文京区後楽二―三―一二 岸本昌次郎  
(新五期)電話(八一―)五二三五へどうぞ



# 黒岩先生の御逝去

に思う

渡辺 健治

昭和二十九年から三年間の在学中、私は国語甲の授業を黒岩先生から受けた。担任だった中田重成先生（人文地理）、浜松一男先生（体育）、石上二郎先生（生物）について私の印象に残っている先生なので『紫筍』十四号誌上で御逝去を知って感慨を禁じ得なかった。先生は当時既に高血圧に悩まされていたから、ちょっと病院に行ってきたのでと弁解なさりながら、二重まぶたの疲れたお顔で教室においてになる、ということが何回かあった。疲れきった中年の男性というイメージが生意気盛りの高校生に与えた印象は、先生にはまことに先礼ながら、あまりよいものではなかった。

先生の授業時間の思い出の中で自意識過剰だった当時の私にとって屈辱そのもののようを感じられたでき事を紹介しよう。もち論、その原因はすべて私にあるのであって、先生はむしろ助け舟を出して下さったのであることは予め申し上げておこう。

一年の、それもかなり初めの頃だったと思

う。教科書に三好達治の「整の上」という詩が載っていた。この作品を調べて発表するのが私の担当になった。詩の解釈や鑑賞のし方がわかっていなかった私は、通り一べんにこの詩を散文化して事足れりとしていた。さてどうにも様にならない発表をおえて、型どおり「何か質問は？」と級友に向かって言った時、後の方の一人が手をあげて、この詩の各行が連用形で終わっているのはなぜか、と問うたのである。私にとって意外外だったこの間に立往生していると、先生は立ち上がってわたしが説明しようとおっしゃって、黒板の前に立たれた。その御説明を聞いて、私の発表が全く皮相なものであったことに気がかされ、言いやうのない恥ずかしさでいっぱいだった。このことが国語の授業とはむずかしいものであるということに痛感させた決定的なできごとだった。今、生徒に国語を教える立場にある私であるが「整の上」に接するたびに、腋下に冷汗のじむのを覚え、いかにも気の毒だと思っておられるような微笑をうかべながら私に代って黒板に向かわれた先生の姿を思ううかべるのである。

先生が吉井勇に師事されていたことは、今度の『紫筍』誌上で初めて知ったことであったが、多くの文学者と交際を持たれていらっしやるようであったことは当時、先生のお言

葉の端々からもうかがわれた。ところで、これまた、先生には失礼なことなので恐縮だが当時の私は、それを先生の自慢話としてしか受取っていなかったのである。当時、西条八十作詞の歌謡曲が盛んに歌われていたが、私にはその俗っぽさががまんならなかった。八十が詩から歌謡曲に転じたのには、大震災の時の経験が根底にあるということは、周知の事実だが、当時の私には、その歌謡曲が民衆の心を歌ったものだという説明が、いかにも偽にする弁護のように思われて、反発しか感じられなかった。『紫筍』の記事で先生の多難な生い立ちを知り、八十に同感する先生のお氣持が推察できるように思う今、浅薄な一本氣がどれほどか先生を傷つけていたであろうと思うと、心の痛む思いがする。

こんな次第で、尊敬とか信頼とかいう氣持からはおよそ縁遠いところで先生を感じていた私であるが、ただ一度非常に感動して聴いた講義があった。今はなき先生にこの感動をお話して、生意気な劣等生徒の御無礼を御許し頂こうと思う。

三年も終りに近い頃の授業だったと思う。当時の日記帳が今すぐ見当らないので、具体性を欠く文になって恐縮だが、啄木か一葉の生涯についての講義であったかと思う。先生はその悲惨な生涯について説明された。それ

昭和44年度 都立文京高校同窓会 会計報告

昭和44・4・1～45・3・31の間の会計は次の通りになります。

昭和44年3月31日 会長 渡辺剛彰  
 会計 西岡弘

監査の上、正確であることを認証します。

会計監査 静谷栄夫  
 " 榎本幸三

1. 財産目録 (45・3・31)

イ、貸付信託 (基本財産) 2,290,000円

ロ、現金 552,747円

ハ、物品 ①両開き書庫 ②ハガキ印刷機(2台)  
 ③書類入れ ④手提金庫 ⑤机(2)、イス(1)、  
 ファイル(1) ⑥ストーブ ⑦ヤスリ板(1)

ニ、郵便口座 (36号) 420円 (繰越162,120円 払出  
 274,000円 手数料 400円、収入 112,200円)

ホ、奨学基金 (55,911円)

ヘ、会館建設基金 (47,000円)

2. 現金

①収入 2,300,406円 ②支出 1,741,659円

終身会費 1,128,400円 各部 35,000円  
 (2600×434)

繰越 368,166円 名簿 560,000円

利子 144,334円 会報(送料共) 298,034円

振替 274,000円 同期会補助 6,440円

満期 350,006円 人件費 169,800円

名簿代 4,200円 通信費 6,010円

会館建設基金 18,000円 母校後援 20,000円

奨学基金 5,100円 運営費 75,985円

総会 8,200円 備品 35,500円

③繰越し 558,747円 総会 47,290円

奨学基金へ 55,100円

会館基金へ 47,000円

黒岩先生顕彰 35,500円

貸付信託 350,000円  
 (満期分)

はしみじみと心にしみ入るような話だった。本当の美しいものに触れたような気持が私の胸をうって、いつになく、じっと耳をすまして聴き入っていた。その夜、日記帳に次のように書いたことを忘れない。「今日の黒岩氏(先生、お許しあれ。)の授業はすばらしくった。ふだんの、どこか遊びのような雰囲気とは違って、じっと感情をおさえながら話す氏の様子は印象的だった。話の内容の悲惨な人生に対し、深い同感を感じていられるよう

に思えた。あたかも自分の人生を語られているようだった。」  
 今思えば、正に先生は、祖父のもとで一人育った御自分の少・青年期の、忘れようとしても忘れられない苦勞の思い出を、心の中にダブらせて語っていたのである。未熟な私を感じたように、先生は御自分の人生を語られたのであった。この一事だけで、私は黒岩先生に教えを受けたことを非常に貴重なことであつたと言つて憚らない。

文京を去つて十二年余、大阪の高校生から先生と呼ばれるようになってからも既に七年その間、一体何人の若者の心に訴える授業をしたかと願るに、激しい自責の気持ちにさいなまれる私である。黒岩先生の温顔はそういつに一種厳肅な趣きを湛えて、はるかな高みに浮かんでくる。  
 当時の不明を恥しながら、この文を草し、以て、先生の御冥福をお祈りするものである (九期B組)

# 文京紛争

T・K

最近、青年を中心とする政治運動が、世界的に広がった。

一昨年、各地大学・各高校で、学内問題を加え、そのピークと達した。

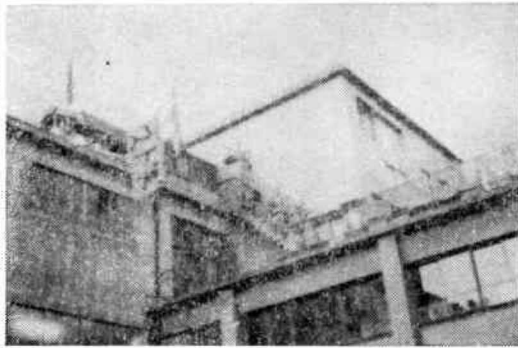
我が母校である文京高校（旧市立三中）もその例にもれず、昨年10月に、数個の問題提起と共に、学内紛争に突入した。

これらの内容を、先輩・後輩の意見を紹介しながら、述べて行きたいと思う。

## 予期された学内封鎖

9月以降、国際反戦デー闘争を目標に、全国的に、緊迫した状態に入った。その中で、文京では、文化祭（後夜祭）中のデモ、その他集会などで、本他校生による封鎖が予期されていた。

学校側としては、教師数名を毎晩警備に当らせていたが、10月19日、11時頃、数十名のヘルメットをかぶった、他校生をふくむ本学生徒が新館へなだれ込み、校長・教師を朝まで監禁し、封鎖をなし遂げた。その際、彼らは、スト実と名のり、四項目要求（後に八項目へ）を出した。



## スト実八項目要求内容

（四項目要求も含む）

- 一、サークル顧問制撤廃
  - 二、一切の処分を出さない
  - 三、スト権を認める
  - 四、配布物・掲示物届け出制撤廃
  - 五、集会許可制撤廃
  - 六、授業再会はしない、出欠はとらない
  - 七、教課審査中に学校側は反対声明を出さず
  - 八、これらの諸要求を大衆団交の場により確認せよ
- 以上

## 文京紛争経過

10月初 文化祭（後夜祭）中、中庭で集会が開かれ、その後校内をデモンストレーションした。

10月10日 「タテカン規制反対」をかかげ、集会在数十名の生徒により持たれた。また、この後、日に日に、運動がエスカレートしていった。

10月19日 午後11時30分頃、新館封鎖がヘルメット姿の本他校生によりなされ、校長、教師を監禁した。

10月20日 全校生徒体育館集合、この緊急事態が校長より説明された。自然に全校集会在開かれ、自発的に進行係が結成された。

その後、約一週間、クラス討論、全校集会、合同HRなどが、繰り返された。

10月28日 各クラス決意文発表、スト実の自主解除要求。

10月29日 機動隊導入を恐れ、教師による実力解除をしたが失敗した。しかし、このことが全校集会で取り上げられ生徒の教師に対する不信などで混乱が生じた。

翌日、体育館で、校長より生徒に、事態の説明がある予定であったが、実際はなく、生徒は、予期していたとは言え、この非常事態に呆然とした。しかし、その中で自発的に進歩係をつとめる者が出、一応そのもとでまわり、全校集会が開かれた。内容は、一応クラスごとに話し合いをし、進行係へ代表者を送るといったこととなった。

### 緊迫感つのる個別H・R

その後、進行係の計画のもとで、クラス、H R、合同H・Rなどが続けられた。

会クラス、臨時教室が与えられ、約一週間後ようやく落ち着き始めたが、一方では、今後の問題に対する緊迫感が、切実に感じられるようになった。

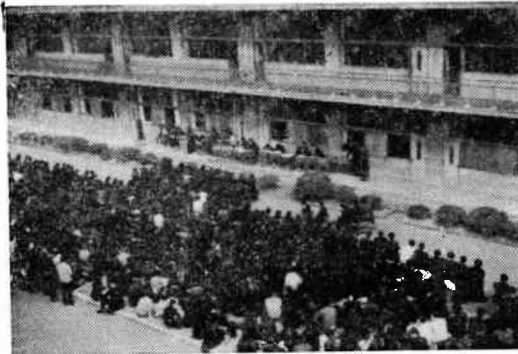
ところで、その間各クラスようやく話がまとまり始め、決意文作制に当り始めていた。

10月28日、全クラス決意文発表、事実上の発表により、封鎖解除の道へ進んでいったと言える、またこれは、全クラスの連体をも作ったのであった。

ほとんどの決意文は、まず第一に封鎖を解除し、各クラス、自らのところへもどり、そこで初めて、新しい文京のため、話し合いを続けるという内容であった。

### 意外な方向性

その頃、文京も一紛争校として、社会方面から注目されていたため、学校側としては、



青山高校などのように、機動隊導入を恐れ、29日朝早く、ついに実力で封鎖解除にうつったが、スト実らの抵抗により、失敗した。ところが、これは、スト実自主解除がうたわれていたお行なわれたため、良い効果は

ところが、スト実とは、意外にも、自主解除を宣言。全校生徒により、校内の清掃。後2時30分、再び、全校集会が開かれた。そこで、約一週間クラス討議となった。

11月6日 全校集会。臨時進行係解散、新機長団結成。

11月11日 潜接業者により、再封鎖防止のため、校内シャッターが溶接された。この問題について、スト実・CC共闘は、校長に対し、団交を申し込んだ。(文京有志参加)

11月12日 学校行事としての遠足が実施された。スト実・CC共闘は、集会を開き、校長と13日に団交を持つことを約束した。

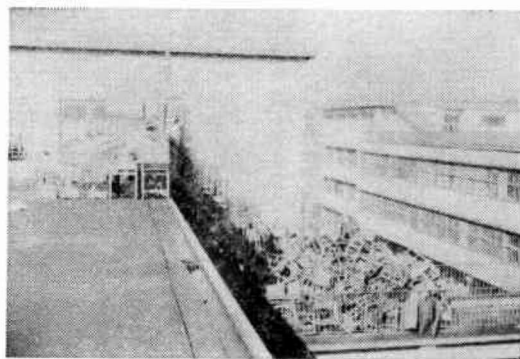
11月13日 学校側、スト実・CC共闘を暴力的かつ非民主主義的とひなんし、団交を拒否した。

11月14日 学校側から事態要説・これからの予定をプリントにし配布した。その内容では18日に全校集会が開かれることになっていた。

11月18日 全校集会が開かれたが、スト実・CC共闘はそれを拒否し、中庭で集会を開いた。また、その後、全校集会紛糾と議長席に突入し、校内をデ

持たなかった。

その日、全校集会で、責任追求が行なわれたが、突然、スト実より、自主解除が宣言された。これは、一般生徒の意を取ったもので話し合いを続けるという条件で行なわれた。全校総動員で、清掃に当った。



その後2時30分より、再び全校集会が開かれ、今後の計画を立て、後一週間、クラス討論となった。しかし、この討論も、封鎖解除による気のゆるみから、あまり期待のできる

ものではなかった。

### 中心機構の補強

11月6日、今まで、全校の中心として行動して来た進行係は、正式にクラス代表2名を選出し、初めて生徒の手で作られ、生徒の手で運営される新機構「機長団」として誕生した。(教師も文京生ごとく、文京講成員の一人として認められ、代表2名を送った)  
この機長団編成に致っては、今後文京におけるすべての中枢機関に大きな影響を与えることになると思う。

### スト実CC共闘とは？

文京には、反帝高評と称す十数名の生徒がおった、彼等が中心となつて、封鎖すなわちストライキに入つたのである。その際文京全学ストライキ実行委員会(スト実)と名のりその後数十名の共鳴者と共に、クラス、サークル共闘会議(CC共闘)を成立させた。  
およそ彼等が新館に泊り込み、パリストを続けたのである。

### 封鎖の意義

スト実とは封鎖の意義をパリストすることに、産学共同路線を妨害し、真の学校体を取りもどすことにあると断言する。(産学共

モンストレーションして歩いた。

11月24日 封鎖解除後の授業内容について、学校側から、3時間方式が提案された。(これは、形式的には、18日全校集会で承認された。)

11月29日 3時間方式について、詳細なプリントが配布された。

12月3日 3時間方式が、実行された。その中で、授業について、話し合われ、まとまりのついたものから、始められた。

その後、いろいろな問題を残し、退廃ムードの中で、授業が進められた。

12月25日 このまま、冬休みに入った。

1月8日 始業式までも返上して、文部省規定の授業時間に達しようと、三年の入試中も授業を行なった。

3月10日 おわかれのつどいが行なわれた。そして、三年生は大学へ、社会へと飛び立って行った。  
また、クラスごとに卒業証書を渡された。

4月 この状態の中で、新入生諸君は、期待に胸ふくらませ、入学式に参加した。

同路線とは、現在社会は分業化しつつある。

当然そこにおいてその分業に適する人間を要求する、そこで現在の文部省政策によると高校においてもその傾向が大いに影響されることになる。その社会すなわち産業に合った道（授業）を行い、大学へと進ませることを言う。）

また一般生徒は、それに今までの反省を求めた、そして単なる問題提起と受けとった。この違いは、29日の封鎖解除により、一応授業は始めない、そして新しい文京を作るという形で統一した。

学校側の不信感つもの！

11月11日、潜接業者が、校内のシャッターを溶接し、再封鎖を防止した。この問題をおって、スト実・CC共闘は、校長に団交を申し入れたが、校長は彼等を、暴力的かつ非民主主義であると断言し、それを拒絶した。

ところが、このことは一回受け入れられたことで、一般生徒にも大きな影響を与えた。また前にも、生徒の意志を無視した行動をいくつか取っており、生徒の教師に対する不信感、つものばかりであった。しかしそれと共に生徒の方も乱れていたため、学校側の案に乗る以外はなかった。そこで全校集会が開かれ、3時間方式が証任され、12月3日から

実行された。これは一日を3時間に分け、授業ごとに話し合いをし、その中で話し合いのついたものから、授業を開始するといふものであった。



意義を失くした全学ストライキ！

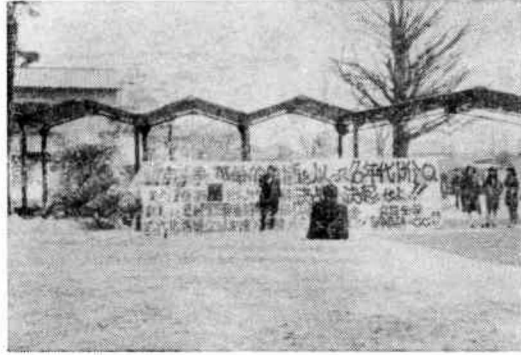
しかしその改革案も、表面的なもので、日に参加がへり、一クラス（50名）、約10名から20名であった。この状態は最悪の事態であることはもちろん、来米の希望も、持つ

44年度同窓会館建設資金

(一口五百円)

金子 鉄男	1	西岡 弘	10
菊池 真実子	1	久井 健一郎	2
宇治川 みや子	1	松原 正彦	1
栗原 一博	1	大谷 唱二	2
久我 明子	1	赤坂 正雄	10
吉田 進	1	清藤 正光	1
谷田 貝あさ子	1	若林 百合子	10
前山 君子	1	住田 重昭	1
鶴巻 格	2	石井 貞江	1
内田 千里	1	内田 訓行	1
徳納 賢一	1	繁田 賢作	1
角原 虎市	1	齊藤 和	1
稲葉	1	中西 良	1
稲葉 澄子	1	工藤 享	1
橋本 嘉夫	1	加藤 友章	6
細木 歳男	1	高島 愈	2
横田 哲哉	1	川口 順一	1
若林 守男	20	新崎 やす子	1
矢島 健治	1		

計 四七〇〇〇円



## 社会人から見た高校生の ゲバについて

高校卒業し約二十星霜、今は、小企業を経営している。

さて、それ／＼解釈の仕方も違いました。ゲバの目的種類により対外的、対国家的な極めて政治性の強いものと、高校内部の施設や規則の改善改良などを求めるもの、又運動部やクラブ内の部員の退部・感情の礎山からくる内ゲバに区別できるのではないかと。

ことさえてできなかった。これが2ヶ月間の話し合いの結果であるのか、ただ望然とするばかりであった。ある業者に聞くと、売り上げが倍増したとのことである……？

## 社会人の眼！

これが紛争の簡単な説明であるが、ここで文京を卒業し、現在社会で活躍なさっている先輩方の意見を紹介したい。

私の在籍の頃は、『もっとよい講堂や理科室が欲しい』と言う意思は誰れでも持っていたが、ゲバ行動はしなかったし、政治的なレツドパーデ（赤い教師追放）もあつたがゲバはなかった。穏さであつた。それが、今では一部の生徒達とは云え全国的な規模をもって拡がり、世界的流行の渦中にあるように見られる。それに、現代社会が余りにも加速度的に、社会全体の構造を複雑化せしめ、インフレの現象が経済正常の運行を阻止し、経済の動きを中断或は防止せしめ、社会の発展に關連づけられる不均衡をもちつゝ、発展進歩している。このような時には反動的考えは許されず、思考の能率性が必要なのである。

社会構造の複雑化する反面に社会的分化に

よるグループが出来、それによって、その間に対立と闘争が生じるのではないかと。それ／＼の社会集団が心理的に於ては、その集団に属する個々の行動や主張は、その集団の爲にあつて他のグループとは何ら關連を持たない無責任性となつて現われる。それが表面に街頭で赤旗やゲバ棒、投石となり、公共物を閉鎖したり危害を加えたりするのではないかと。民主主義の政治組織に於ては、自由と權利を守るため、おのづから限界は決まっている。一般大衆とともに行動することが民衆の福祉と考へているのか、けれど、民主的であればある程全部の人を満足させることはできないこともなる。即ち国家権力の存在が一部の社会の秩序の安寧を乱すものから、生命財産を守るために無秩序にしておくわけにはゆかぬと思う。正統性と合法性の問題が起れば、国家権力によってどうにもなる。

ゲバするものも理想を実現したく仮定的な価値を考慮しているかも知れぬが、否定せざるを得ない。

プラートの政治家論を引用することになるが、一定の歳迄は母のもと、教師のもとで、マイ・フォーム、財産を持たないときに、教育訓練を受け、目的を持った理想的な青春を送つて欲しい。もし将来、社会改良を志すならば、將たるものをもって、方向を示し、生

活行動が明瞭な、しかも清潔で健康たり得る人とならなければならぬと思う。それを高校時代に養ひ研究することだと思ふ。

議会民主制の社会では、ドイツのナチの政党、キレンスキーによって行はたたソ聯の革命、又中南米などの革命は日本でないと思ふ我國の世情では基本的相違なく運営上の違ふのみだと思ふ。

一方社会では、思考に賛同しても、奇形的手段は取引の対象外とならう。

だから高校時代には社会を見極め、役立つ人間性を養つてはと思ふ。

昭和四十五年八月二日記 熊谷にて

## 文京の紛争に感した事

H・K

昨年の十月からだらだらと六ヶ月余りも続いた文京の紛争は、無為無策の英雄主義的な一部生徒と、無知で真じめな多数の生徒と、お話し合いと多数決で全てを解決しようとする先生とにより、それはまさに紛争として収拾されてしまったのだ。紛争は、各大学学園闘争の猿真似でしかなく、それを担っていた生徒は英雄主義によい、遊んでいたのではないことを知るべきである。

「暴力はよくない、話しあおう」等の言葉が

いかに矛盾を孕んでいるかは明らかである。現実には常に最後は、両者の力関係によって決定されているのだから、くだらない先生を追求する事は楽しいかもしれないが、馬鹿げた事だと思ふ。批判や問かけにばかり終始して、自らが本当は何と対決しているのかを忘れれば、それは何の意味のない紛争に墮落していく、闘う人皆が自らを思想の領域に登場せしめない限り、敗北は常にくり返えされる。

きびしい御意見でした。

このたび、無理に原稿をおねがいし、心良くお受けいただいたこと、心からお礼申し上げます。

最後に、我が母校である文京高校が、青年のすばらしい生活の場として、より発展することを心からいのりしたいと思います。



## 波音

### 第一章 波辺 忠之

波の音が耳の奥で彼を不安にさせていた。暗い海辺は、生命を飲み込み、彼を目覚めさせるには十分すぎる、恐しい所だった。潮騒の響きは快いが、その源は、深い深い、彼の叫びだったのかも知れない。

その日にかぎって、海はないでいた。彼は朝日を見に四時前に、松林に出た。松林は夜明けの冷気の中で、しずまりかえていた。海は静かに、波をたてていた。水平線近く、いかつりの漁火が、強い灯を失いかけているのも確かだった。夜明けが近い事を知らせる様に、はるか遠くが、赤く燃えて来ていた。彼が夜明けの緊張を味わうのは、すでに、六回を数えていた。いつもながら今朝も一人で眺めているのもったいない位、壮快感を味わっていた。そこにはひとつの感動がある事を、体得していた。

周りが明るくなってから、浜に出た。波打際を歩いた。湿った砂が冷たかった。砂浜には、一定の間隔を置いて、くらげが打ち上がっていた。カントンの固りの様だが、蹴とばすと、強い弾力が帰ってきた。



# 大学は教え

なくていい

大学は何も教えなくていい。いや、何かを教えているような顔をしないでくれと言いたい、現在の大学は何も教えていない。私の通っている大学は理工科系の大学なので、週に平均三時間からの授業がある。しかし、その授業は、未だに単なる事実の羅列にすぎない。そんな授業は、私にとっては何の意味も持たない。そういう事は、書物を紐解けば、いくらでも知ることができるからである。

私は、大学は授業などというものをする必要はないと思っている。あえて授業をするならば、勉強の仕方を教えていただければそれでいいと思う。大学に行つてまで授業などで教えていたかどうかとは思わない。どだい学問などは自主的にとっくんという姿勢がなければ、何にもならないのである。しかし、現在の大学は、授業をし、御丁寧に出席までとり、強引に学生を拘束し、敢えて学生の自主性を喪失させているように思える。

大学は、授業などをやるのをやめるべきです。そして、学生が自主的に勉強にとりくむことができるような環境を作りだすことに精

を出してもらいたい。学生は、授業廃止に向けて努力しようではありませんか。

## 紫辞典

愛	全能の神
自由	自分の自我に対して責任を取る意志
平等	誰も望まないこと
革命	大人の遊戯
暴力	アンチョコ
人間	自明
公害	先進工業社会製造の副産物
海	ジャンボゴミ箱
反省	社会への屈服
自己批判	哀願
週刊誌	チリ紙引換券
マガジン	哲学書
平和	戦争
社会主義者	偽善者
自動車	体力減退促進機
告白	嘘
テレビ	白痴大量生産機
定期	キセル
政治家	国民の小使
恋	不義密通
思想	物の見方・考え方

「くらげの生命は人間のと同じだろうか。」彼はひとり言を言った。

九時を過ぎると、朝日は、人の肌を灼熱色に焼くに足るエネルギーを発散していた。

朝の散歩をした後ひと眠りした彼は、朝食を食っていた。飲を食う事は生きる為だ、と割り切っていたし金もないので、わびしい物だった。彼にとって飲物おろか、生活そのものが、ある究極の為のみ存在していたのだと彼は解っていた。究極を求める今の姿が、その障壁になっている事が、どうにもならなかった。食べる為に生きるという姿勢が必要だったのだ。

都会の喧嘩から見ると、海辺は別天地だった。確かに大都会には、彼の心をいらだたせる刺激が多すぎだが、それは夕暮と共に消えさる太陽のようであり、休息を持っていた単純な存在の恐ろしさを知るよしもなかったのは当然といふべきなのだろうが、やはり無知な事だった。

彼にとって、逃避は自然の摂理にそむく事だったのだ。

カニは夕暮と共に、自分の巣へもどり、彼の耳の奥は、潮騒が鳴りつづいている。

完

## クラブ活動について

## 今年卒業して

クラブ活動については、古くからといって最近ですが、勉強と両立できるかどうかとよく言われます。そこで、現在の文京を見て一言書きたいと思います。

今の文京は、三年になると一般にクラブから引退するらしいです。私は、これを大変残念に思うばかりか、絶対にやめなければならぬ風習だと思えます。これがまた一つの受験生活を暗くする原因ともなるのではないかと。青年の場を老人のごとき者にこわされるのではないかと思えてならない。

私は、高校、また高校生活をもっと楽しく自由に送つたらいいと思う。学年など気にせず、クラブに身を投じ、青年としての喜びをもっと知ってほしい。そうすれば、おのずと学生間の友好、それに高校生活の充実、これがクラブからのものであったにせよ、勉強にも大きな影響ができることは事実よいことである。確かに現実はきびしい。でも我々をふくめて、もっと青年らしく生活したい。

私達は人間として、一番大切な何かを、もっと考える必要があると思う。

私が文京高校を卒業して早くも半年が過ぎようとしています。高校時代をふり返ると、あまり勉強もしなかったせいでしょか実に楽しかった思い出いっぱいです。というのも我学校がとても自由だという点から言えるのではないのでしょうか。服装の自由、学科の選択制度、昼間外出の自由などちよっと他の学校ではあまり考えられない事が我学校では行なわれていたのです。

生徒を信頼しているのか、それともきびしい規制に縛られ青春の大切な時を片苦しく過させることのないようにとの親心なのでしょか。とにかく私は自由に楽しく高校生活を過してまいりました。しかし私はその自由で楽しい裏にとてもきびしい、冷たい何かをも感じました。自分がしっかりしなければどんどん置いて行かれる、そして高校生として、いわゆる世間の大人が言う、高校生らしい態度からはずれてしまうのではないかということでした。

学校に私服を着て行き、喫茶店などに自由に入れる事、パチンコ・マージャンなどにも気軽に行ける事など……はたして先生方はこ

んな事をする為に服装を自由にしたのでしょうか。何度か注意もされました。しかし聞く所によると今でもそういう事がしばしば行なわれているということですよ。まったく悲しい事です。

また新しい試みとしてなされた三年生の学科の選択制度、これも代返などで気安くサボタージュする人が多かったようですよ。そして今では二時二十分にすべての授業が終つてしまふそうです。今年入られたある生徒のお母様が「文京高校ってずい分授業時間が少ないんですね」とおっしゃられていたのを私は何か複雑な気持ちで聞いていました。

今思えば楽しかったはずの高校生活も反省でいっぱいですよ。あんなに魅力的だった私服通学も、何か空虚なものに思え、制服に依るある程度の束縛も、自分の学校への誇りと愛着の表示として懐かしく思われます。

ここで一つ先生方にお願いがあります。本当の自由ということ、そして何の為に我学校で服装の自由や選択制度をしたかという真の理由をよく教育してほしいのです。こんな事はもう高校生なのだから個々でわからなくてはいけな事でしょう。しかし今だに喫茶店に行ったり、サポータージュをする者がいる限りそれはわかっていないのです。私だつて高校を卒業した今、やっとわかりかけてき

たのですから。

そして最後に一つ、今年は卒業式があるの  
でしょうか。卒業式のない卒業とはとても淋  
しいものです。私達の可愛い後輩の為に、  
悔のない卒業式を送らせてあげたいのです

## 新入生の声

中田孝行

私が文京高校に入って、まず一番に感じた  
事は文京高校が実にいいかげんな高校だとい  
う事です。いいかげんとは、文京高校には自  
治会がないから、私は校則というものを知ら  
ない。そして教師たちが言う事には、「君た  
ちはもう高校生だ。だから高校生としての自  
覚をもって自分で判断しろ」等です。だから  
私が自分が判断して行動(授業に出ない等)  
したら教師に怒られた事がある。だから私が  
なげいけないのかと質問すると教師は、いい  
かげんにごまかしてしまつた。

それから、実に盗難が多い。四月に我クラ  
スの女子がお金を盗られた。五月にはとなり  
のクラスで合計四千円以上も盗られた。被害  
はものすごい数です。確かに中学校の時にも  
盗難はあったことはあったが、こんなにもひど  
くはなかった。これでは安心して教室に物を

おいておけない。

又、我校には、定時制があります。昼間は  
働いて夜は勉強するという事は大変だし、そ  
れをやっている人は確かに立派だと思ふ。こ  
こで私が言いたい事は、次の事件についてで  
す。その事件とは、ある朝教室に入ると私の  
席のそばのいすの背中あてがきのうまであつ  
たのに今日はとれていていた。しかも、違ういす  
は板がはがされていた事です。

そしてよくらが教師にこの事を話すと、教  
師は「絶対に定時制の生徒ではない、昼間の  
生徒だ。」と言いました。その教師は、その夜  
は学校にいませんでした。しかし、きつぱり  
言い切つたのでした。そして、私たちが「定  
時制の生徒がやつたとは言わないが、帰るま  
でちゃんとあつたのだから、定時制の生徒が  
疑われてもしかたがないのではないか。それ  
なのになぜ、定時制の生徒ではないと断定す  
るのか。」と質問すると、その教師はまっ赤に  
なつて(怒りにふるえている)「定時制の生  
徒は、お前たちなんかとはぜんぜん違ふんだ  
働いている人は絶対に物をこわさない。」とい  
いました。私は、この発言(考え方)に対し  
て強い反感を持ちました。

最後に現在、我校では反帝高評が「安保紛  
争、沖繩人民解放、佐藤内閣打倒、プロレタ  
リアート革命」等の事を訴えています。反

帝高評は別にしておいて、一年生の多くは政  
治的な事には無関心です。中には、安保を知  
らない人もいます。そして、その人たちの考  
えている事は大学の事であり、社会の事(自  
分をいかに高く売るか)です。つまり、高校  
を大学の予備校と、大学を社会に出る時出た  
後に有利にするため行くと思つてゐる。

しかし、私はそれではがまんできません。  
だれかのように、いつもテストの事を考えて  
朝から晩まで勉強(テストのための)するこ  
とや、それをごまかして相手の成績を気にす  
ることは、私にとって、ものすごい苦痛で  
す。そして、みんながそうなれば、文京高校  
は本当に灰スクールになってしまひます。

### 44年度奨学金賛助金

(一口千円)

森崎 益夫	3	細木 歳男	1
橋本 嘉夫	1	稲葉 澄子	1
稲葉 葉	1	大石 隆紹	5
高島 愈	4	中西 良	1
繁田 憲作	1	橋本 八郎	3
久井 健一郎	1		

計 口

累総計

五五九一円

## 序

ロマンチズムの枯れた根しか持てない、  
多くの僕に、一滴のそれを灌ぐために。

# 大地

山本 広信

しめった大地に

落葉が舞うのです

都会のスズメ達が リズムをとります

落葉に生命を与えているのは 風

それも冬の厳しさを残しながらも

十分 春の生氣と暖かさを 含んだ風

その流れは 残った雪の上を

気持よさそうになでてゆきます

からやかな舞いは

とろとろ 雪を溶かし

春の水が流れ出します

大地は 水を待ち受けて

満足そうな 大地の色に

変色してゆくのです

白茶けた顔色なんか もう 流行おくれ

そんなしめ面なんかしてられない

何といっても春なんですから

大地は 木々を水々しく振舞わせるのです

つややかな緑

この舞台の主役 それは太陽

スポットライトそのもの

光は いつでも僕達の側にいます

これを書くペン先の上にも

かぎらない陽光が舞い

すべてが 僕を困惑させる

光のうずとなるのです

それは 女精たちに囲まれた 僕の困惑

こうした 生の祭りの中だからこそ

僕の心に 朽ちはてた木々

大地の片隅に 吹きよった 枯葉の灰色に

死の落着きを感じないではいられません

彼らこそ 大地

たとえ コンクリートに隠されようとも

不動の舞台 なのです



## 紫筍編集に携わって

橋立 寛

私は、文京卒業後三年間、この紫筍編集に携わってきました。最初の一年は、先輩と供に、後の二年は、後輩と供にやってきました。その中で考えさせられたのは『同窓会報としての紫筍とはどうあるべきなのか。』ということでした。

一般に、同窓会報に抱くべき姿とは、同窓会員間の交流を図ること、母校の現状を知らせることの二つ位である。しかし、現在ともすると、同窓会、母校等のことは、日常生活の中では忘れがちになる事です。それは、総会を見れば明らか事です。約八千人いる同窓会員の中で出席したのは僅か五十人程度でした。でも、これを責めてもしょうがないことです。この様な現状では、紫筍は、同窓会報としての役割は出来る限り減らして、普通の雑誌という感じにしたい。普通の方がいいのではないかと思っています。普通の雑誌というよりも、むしろ同人誌的なものにしていきたいと思っています。しかし、同窓会報から全く逸脱してしまうわけもいかず多くて二十四頁という紙面の都合上もあって

未だ、私の思っている通りのものとはなっていない。それに、何にもまして、同窓会員からの紫筍に対する反響が一通も来たことがないという事は、紫筍編集に対する熱意を喪失させてしまいました。紫筍を読む人がごく僅かであるということは最初から知っていませんでした。最初に述べたことが出てきたのも、読む人をふやすのには？ということからでした。同窓会員に読まれない同窓会報など何の意味も持ち得ないから。でも、紫筍はお世辞にもおもしろいものとは言えないから、一般の同窓会員に読む人が少なくてもしょうがないかも知れない。私達、編集者も毎年やる事は同じであるというのが現状である以上、文句を余り言える方ではない。たった一通の手紙で、原稿を全く知らない人に依頼して原稿が数多く集まるわけではない。毎年企画のたて方にも問題が数多くあることも事実です。しかし、言い訳を言わしてもらえば、私達、編集者はこれだけをやっているわけではないし、こういうことに興味を抱いているわけでもないの、言わずと知れたうちに、いいかげんになってしまふのです。そういう状況で一般の同窓会員からの批判なり、助言というものは、やはりうれいものだろうと思います。

今年も、それでも原稿の集め方を変えてみ

ました。それは、編集者自ら、一般の同窓会員のお宅にうかがって、原稿を依頼しようということでした。やはり、何と言っても、一通の手紙よりも、直接頼まれれば、頼まれる方も頼まれ安いのではないでしょうか。一通の手紙では、頼まれた方も要領を得ないで、書くことができないということもあるだろうから。しかし、今年も失敗でした。この様な原稿の集め方は、非常に時間がかかるものでした。それにまわれる範囲も限定されてしまふということも問題です。まあ、今年も、私がおまわり熱心にやらずに、後輩の柿沼君一人にまかせっきりだったということも失敗の原因にはなっているのでしょうか。

さて、出来あがった今年の紫筍はいかがなものでしょうか。ほとんど変った所はありませんが、今年も、編集者が自ら大幅に紙面をうめているという特徴があります。しかし、これは原稿集めに失敗した結果でもありません。

最後に、皆さんからの色々な意見なり文句なりが届くことを願ってやみません。そして原稿を書いてくださいました皆さんには、心からの感謝とお礼を述べさせていただきます。



表紙のことば

「健サンク」「ヨォーシノ」と声が飛ぶ。小生、近頃オールナイトなるものにとりつかれて、毎月一回は夜の池袋の中に飛び込んでいく。土曜の夜から日曜にかけて、延々八時間の上映であるが、不思議と睡魔に襲われないのである。それというのも、前日の十分な睡眠の為であるかもしれないがそれよりもむしろ、場内の雰囲気によるところが大きいと思うのである。実際、あの場の雰囲気には不思議なものも存在しているのである。それは観客同志の妙な連体感やむんむんとする若者の熱気であるのかもしれない。健サンの「死んでもらいやしよう。」というタンカで場内からいっせいに拍手と喚声かとぶのである。その時点においては、観客一人一人が健サンなのであって健サンの動静に対して、すぐに反応、感動できるような状態なのであり、それか、拍手や喚声になって表われるのである。

ところで、もし、この映画に対する態度と同じようにすべての物、すべての出来事に対して、すぐに反応、感動ができるような心を持っていたらどんなにか、すばらしいことだろう。そして、それを素直に表現できるとしたら。今日もまた池袋の夜の中に飛びこんでいく。

45 年 就 職 状 況

日本交通公社  
理研ピストン  
近畿ソーリスト  
全日空  
三菱商事  
倉敷レーヨン  
安川電機  
住友商事  
三菱銀行  
三越  
武田製薬  
ブリジストンタイヤ  
読売新聞社  
富国生命  
川崎製鉄  
キリンビール  
小田急

井上さち子  
金刺町子  
塩田正江  
竜崎久子  
松田芳子  
鎌田治代  
岩崎みち子  
高野洋子  
鎌原孝子  
藤沢淑恵  
青山キヨミ  
石川順子  
亀田玲子  
高橋薫子  
森山由美子  
磯村麻紀子  
岩村まり子  
高須加代子  
横井健一  
井上恵  
荒牧恵  
佐藤幸子  
高方さかえ  
高山雅江

野村貿易  
日清製鋼  
厚生省  
日立製作所  
ヤンマージーゼル  
東宝  
正宗KK  
富士銀行

若林税務会計事務所

税 理 士 若 林 守 男

(旧 四 期 B)

事務所 東京都文京区千駄木2-31-4

TEL (821) 9 4 7 6  
(827) 7 0 1 3

倉田由紀子  
高橋幸子  
白石紀子  
小川直子  
高野あき子  
中野幸子  
中山幸子  
山田広子  
亀山潔子  
吉田美智子

## 昭和45年度同窓会役員名簿

役	職	氏名	卒業年組	電話
会	長	渡 辺 剛 彰	20 A	811-7704
副	会 長	西 岡 弘	20 C	811-6311
	”	赤 坂 正 雄	20 C	0498-31-2925
会	計 監 査	太 田 敏 夫	26 A	269-3361
会	計 監 査	河 野 一 郎	25 A	992-5893
	”	榎 本 幸 三	27 E	812-2653
書	記 務	宗 久 知 恵 子	44 E	0482-65-0241
総	簿 籍	藤 沢 洋 二 郎	42 C	
名	報 告	金 沢 美 音	44 B	
会	報 告	橋 立 寛	42 E	918-0964
同	期 会	小 田 部 司	44 E	969-7561
進	路 館	保 高 久 夫	42 G	801-1948
会	館	伊 奈 健	43 H	814-1085
ダ	ン ス	岸 本 晶 次 郎	28 F	811-5235

---

### 文京高校同窓会報

### 紫 筍〈第15号〉

昭和45年 9月20日発行  
 発行 文京高校同窓会  
 編集者 橋立 寛・小林正子  
 野中行雄・岩井芳子・黒田裕子  
 印刷 シ ミ ズ 印 刷  
 電話 (961) 2 1 5 2

---

#### □ 編集後記

今回の紫筍は都合により16ページとなりました。編集員として、よりよい報道をと思いましたが、希望は、現実として認められませんでした。その点を、おわび申し上げます。

# 文京高校同窓会報



正誤表

<p>16頁下段十八行目 太田敏夫先生</p>	<p>16頁枠内右十四行目</p>	<p>13頁三段十九行目</p>	<p>8頁三段 九行目</p>	<p>訂正箇所</p>
<p>本校二十六回卒</p>	<p>日本電子専門</p>	<p>稲葉</p>	<p>稲葉</p>	<p>誤</p>
<p>本校二十六年卒</p>	<p>日本電子専門</p>	<p>稲葉 燁</p>	<p>稲葉 燁</p>	<p>正</p>